

埼玉県学力・学習状況調査（小学校）

復習シート 第六学年 国語



組	番号	名前

【物語を読んで答える問題】

1 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは、この平野をよこぎって、むこうのウメアという村にとまるつごうにしています。ところが、午後ウメアのひとつてまえの駅舎まできますと、二頭しかない馬が、二人づれの材木商ざいもくしょうの旅客りよきやくに借りられたそうで、わたしは、夜七時まで、むなしくそこで待っていました。ところが馬はまだかえってきません。わたしは気がせくので、そこいらの農家をさがしてまわり、ようやく一頭の馬を見つけられました。

駅ぎの番人は材木屋ざいもくやといっしよに乗っていったそうで、かみさんができて、わたしの馬にかいばをくれました。ここからウメアまではまだ二十マイルもあるのです。もうとちゅうには、食事をするところもないので、ぜひここで晩飯ばんめしを食べてでなくてはなりません。それで、番人のかみさんにたのみますと、かみさんは、こころよく、家へつれていき、火のそばにすわらせて、おいしいコーヒート、ジャガイモと、となかいの肉のやいたのをだしてくれました。その家は、大きな黒い森のそばにたっているのです。食事をしていると、きゅうにうしろのその森の中で、ごおうごおうごおうと、北風が木ぎをゆすつてうなりはじめました。かみさんは、

「おやおや、ひどい風ができましたね。わるい晩ですこと。これじゃうちの人は、たぶん、ウメアにとまってあしたの朝でなければかえりません。むこうへおつきになったら、きつと駅舎にいますでしょう。かわりにラルスをつけておあげします。ラルスはあすの朝、うちの人といっしよにかえればいいんです。」といひます。

「ラルスというのはだれです。」と聞きかえしますと、
「手まえどもの子どもですよ。あいにく近所にも、だれもおともをするものがいませんので……。ラルスはいま馬のくらづけをしております。」とかみさんは答えました。
と、ちようど、それとどうじに戸口があいて、十二ばかりの小さな男の子がはいって

来ました。きぬのたばのようになった金色の髪かみのまき毛を、顔のうしろにふさふさとかぶった、ほほのまっ赤な円い青いきれいな目をしたかわいい子どもです。わたしはかみさんが、こんな嵐の晩に、こんな小さな子どもをよくへいきでだすものだとおどろきました。「ラルス、ここへおいで。」と、わたしは、その子の手をとり、

「おまえ、こんな晩にでていくのは、こわいだろう？」と聞きました。子どもは、きよとんと目を見はつて、ほほえんでいます。かみさんはここにこわらつて、

「なに、この子どもだつてだいじょうぶ。おともをします。嵐がつよくさえならなければ、十一時ごろまでにはウメアにおつきになれますよ。」と、わたしが、この子でまにあうかどうかとうたがいでもしたようにべんかいです。わたしは、どうも風がごうごうなるのが心配でたまりませんでした。思いついて子定をかえて、今晚はこの村へとまろうかと考えかけました。しかしラルスはへいきで、もうどんどんひつじの毛皮のがいとうを着、毛皮のとりうちぼうしの両側のたれをおろしてあごにくくり、あつい毛おりのえりまきを、目ばかりのこして顔中にまきつけます。母親はストーブの上にかわかしてある、うさぎの毛皮のあつい手ぶくろをとってわたししました。ラルスは、すばやくそれをはめて、短い、なめし皮のむちをとりあげて、わたしを待っています。

(鈴木三重吉「少年駅夫」より)

問一 「むなしくそこで待っていました。」とありますが、わたしは何を待っていたのでしょうか。次の1から3までの中から一つ選び、その番号を書きましよう。

- 1 材木商の旅客
- 2 かみさん
- 3 馬

レベル6

問二 _____ とありますが、わたしのどんな行動から、かみさんはわたしにこのように言ったのでしょうか。文中から一文を書きぬきましよう。

レベル9



復習シート 第六学年 国語



組	番号	名前	模範解答

【物語を読んで答える問題】

1 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは、この平野をよこぎって、むこうのウメアという村にとまるつごうにしていきました。ところが、午後ウメアのひとつてまえの駅舎まできますと、二頭しかない馬が、二人づれの材木商せいむしょうの旅客りょきやくに借りられたそうで、わたしは、夜七時まで、むなしくそこで待っていました。ところが馬はまだかえってきません。わたしは気がせくので、そこいらの農家をさがしてまわり、ようやく一頭の馬を見つけられました。

駅えきの番人は材木屋せいむくやといっしよに乗っていったそうで、かみさんができて、わたしの馬にかいばをくれました。ここからウメアまではまだ二十マイルもあるのです。もうとちゅうには、食事をするところもないので、ぜひここで晩飯ばんめしを食べてでなくてはなりません。それで、番人のかみさんにたのみますと、かみさんは、ころよく、家へつれていき、火のそばにすわらせて、おいしいコーヒーと、ジャガイモと、となかいの肉のやいたのをだしてくれました。その家は、大きな黒い森のそばにたっているのです。食事をしていると、きゅうにうしろのその森の中で、ごおうごおうと、北風が木ぎをゆすつてうなりはじめました。かみさんは、

「おやおや、ひどい風ができましたね。わるい晩ですこと。これじゃうちの人は、たぶん、ウメアにとまってあしたの朝でなければかえりませんまい。むこうへおつきになったら、きつと駅舎にいますでしょう。かわりにラルスをつけておあげします。ラルスはあすの朝、うちの人といっしよにかえればいいんです。」といいます。

「ラルスというのはだれです。」と聞きかえしますと、
「手まえどもの子どもですよ。あいにく近所にも、だれもおともをするものがいまませんので……。ラルスはいま馬のくらづけをしております。」とかみさんは答えました。

と、ちょうど、それとどうじに戸口があいて、十二ばかりの小さな男の子がはいつて

来ました。きぬのたばのようになった金色の髪かみのまき毛を、顔のうしろにふさふさとかぶった、ほほのまっ赤な円い青いきれいな目をしたかわいい子どもです。わたしはかみさんが、こんな嵐の晩に、こんな小さな子どもをよくへいきでだすものだとおどろきました。「ラルス、ここへおいで。」と、わたしは、その子の手をとり、「おまえ、こんな晩にでていくのは、こわいだろう？」と聞きました。子どもは、きよとんと目を見はつて、ほほえんでいます。かみさんはここにこわらつて、

「なに、この子どもだつてだいじょうぶ。おともをします。嵐がつよくさえならなければ、十一時ごろまでにはウメアにおつきになれますよ。」と、わたしは、この子でまにあうかどうかとうたがいででもしたようにべんかいするのです。わたしは、どうも風がごうごうなるのが心配でたまりませんでした。思いきつて子定をかえて、今晚はこの村へとまろうかと考えかけました。しかしラルスはへいきで、もうどんどんひつじの毛皮のがいとうを着、毛皮のとおりうちぼうしの両側のたれをおろしてあごにくくり、あつい毛おりのえりまきを、目ばかりのこして顔中にまきつけます。母親はストーブの上にかわかつてある、うさぎの毛皮のあつい手ぶくろをとってわたしました。ラルスは、すばやくそれをはめて、短い、なめし皮のむちをとりあげて、わたしを待っています。

（鈴木三重吉「少年駅夫」より）

問一 「むなしくそこで待っていました。」とありますが、わたしは何を待っていたのでしょうか。次の1から3までの中から一つ選び、その番号を書きましよう。

レベル7

- 1 材木商の旅客
- 2 かみさん
- 3 馬

3

「むなしくそこで待っていました。」の後に、「ところが馬はまだかえってきません。」や「ようやく一頭の馬を見つけたしました。」という本文から、「馬」が答えとなります。

問二 とありますが、わたしのどんな行動から、かみさんはわたしにこのように言ったのでしょうか。文中から一文を書きぬきましよう。

レベル9

「ラルス、ここへおいで。」と、わたしは、その子の手をとり、「おまえ、こんな晩にでていくのは、こわいだろう？」と聞きました。

線の後、「わたしが、この子でまにあうかどうかとうたがいででもしたようにべんかいするのです。」とあり、うたがったような様子が現れているのは、ラルスに「こわいだろう？」と聞いているところなのでその一文を書きぬく。

